

毎日の何気ないこと

岐阜市立岐北中学校 3年

郷 創詞

今は今しかない。未来は、今という時の先にあるもの。コロナウイルス感染防止のために、あたりまえだと思っていたことが、あたりまえではなくなった。かけがえのない命、かけがえのない毎日、そんなこと今まで考えたこともなかった。

昨年の夏、祖父が軽トラの中で気を失っていたことがあった。近所の方が気付いて教えてくれた。父と祖母と僕は、急いで畑に向かった。祖父は意識もなく、汗をびっしょりかいて、体が冷たくなっていた。救急車が到着するのを待ちながら、祖父の命が心配でたまらなかった。救急車で大学病院に行き、病院の待ち合い室で待った。祖父の意識が戻ったと聞いた時、安心して笑顔になった。熱中症だった。医者から、「点滴が終わったら、帰れますよ。」と言われて、ほっとした。

今、コロナウイルスのせいで、多くの命が世界中で失われている。かけがえのない命が奪われ、かけがえのない明日が奪われている。だからこそ、1日1日の大切さを強く感じる。

僕は、祖母の入れてくれる新茶の香りが好きだ。毎年、4月末になると僕は祖母と一緒に茶つみをする。茶つみも、この時期にしかできないことだし、家にお茶の木があるからできることだ。きっと茶つみをしている中学生はたくさんはいないと思う。茶つみを楽しんでいる祖母の顔を見ると僕もうれしくなる。来年も再来年も祖母と一緒に茶つみがしたい。

祖父は、今も元気に畑仕事をしている。耳は遠くなったが、しっかりしている。でも時々物忘れをするらしく、この前も外で作業をしている時に、大切な補聴器をどこかになくしてしまった。祖母からそれを聞いた僕と姉は、一緒に探すことにした。しばらく探していると雨が降ってきた。祖父と祖母はあきらめて家の中に入ってしまった。僕はなんとかして見つけてあげたかったので、姉と一緒に探し続けた。2時間近く探し続けて、植木鉢の近くで補聴器を発見した。祖父に補聴器を渡したときの祖父と祖母のうれしそうな顔を今でも覚えている。祖母は、かなりうれしかったらしく、このことを親せきの人に自慢気に話していたらしい。

なんでもないようなことかもしれないが、僕にとっては、大切な出来事の一つ一つだ。家族とテレビを見て笑うのも、ペットの犬のあんくんや猫のオウちゃんと触れ合うことも大切な時間だ。毎日の何気ないことが、僕に優しい気持ちを与えてくれる。笑える時間や心が癒される時間がなかったら、きっとストレスだらけになると思う。

単身赴任をしている父とは、週末しか会えない。だから父が帰ってきた時には、できるだけ話をしようと思う。働きながら家事をしてくれている母とも話せる時間は限られていると思う。だからこそ、今この時を大切に生きなくてはいけないと思う。

この4月で、僕は中学3年生になった。3月から3カ月、学校に行くというあたりまえから離れ、毎日、家で生活している。勉強のことや部活のこと、仲間のこと、そして受験のこと、いろいろ心配なことばかりだ。これからどうなるのか分からない不安、いつまで続くのか分からない不安は大きなストレスになる。しかし、今言えることは、自分の足で一步一步前に進むしかないということ。今、目の前にあるあたりまえに感謝しながら、この先にあるものを求めて一步一步、強い気持ちをもって歩いていきたい。